

日本応用地質学会東北支部
「第3回研究発表会」開催報告

田倉治尚

日本応用地質学会東北支部による第3回
研究発表会が下記の内容で開催されました。

協 賛：東北地質調査業協会

日 時：平成6年2月10日

9：30～16：10

会 場：仙台市青年文化センター3階

エッグホール

参加者：90名

講 演：「今後の岩盤浸透流調査の方向と
現場対話型解析」

埼玉大学 渡辺 邦夫氏

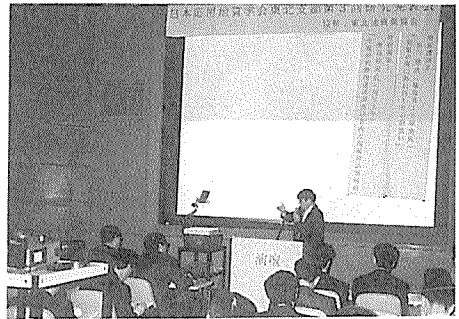
「岩盤の開口割れ目とその取扱い」

建設省 市川 慧氏

発 表：9編の発表で3つのセッションに
区分して実施

内 容：今年度は地下水関連を主要テーマ
とし、田野副支部長の挨拶で定刻に
開始されました。発表会の総合司会
は太田 保氏、午後の発表会の各
セッションは高橋禎一氏、和島 実
氏、倉持 隆氏の3氏の司会で実施
されました。

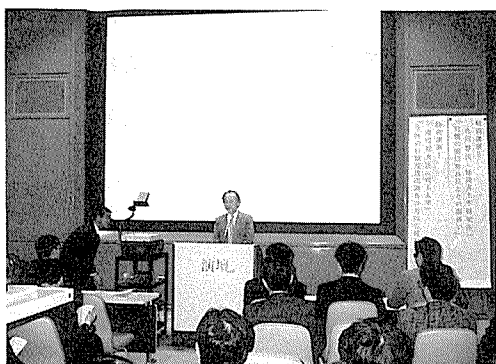
渡辺氏の講演は、岩盤内の地下水
の流れをモデル化する地下水解析の



渡辺先生の講演風景

講演でした。このモデルでは、地質
調査の結果より、主要な割れ目、水
みち等を入力し、モデルによる解析
結果と実測値との比較を行い、さら
に必要ならば調査を実施し、トライ
アル・アンド・エラーの手法により
解析の精度を向上させていく「現場
対話型解析」とのことでした。この
解析では、①計算速度が早いこと②
地質データの inputs が容易なこと③結
果が実測と比較しやすいことが重要
とのことでした。今後は地下水学的
に見て主要な割れ目の抽出やチャン
ネルの地質特性について明らかにす
る必要があり、地質技術者の判断が
今まで以上に求められることになら
うとのことでした。

市川氏の講演は、岩盤内の割れ目について、その発生と拡大および開口に至るまでの機構を説明されました。また、ダム基礎岩盤としての対応では、緩みを生じている岩盤と緩んでいない岩盤内の開口割れ目について、割れ目の進行の防止や透水性の改良手段等について、事例に基づき講演してくれました。結論として、岩盤の補強、透水性の改良のいずれの場合も岩盤内の開口割れ目がどのようなカテゴリーに属するかを把握して対応方針を決定するかが重要であると力説されました。



岡本会長の来賓挨拶

午後の研究発表に先立ち、午後13:00より日本応用地質学会会長の岡本氏から来賓の挨拶を頂きました。

研究発表は現場に関連した地下水調査の事例が建設省および各コンサルタントより計4編、岩盤に関する基礎的研究が2つの大学と東北電力㈱から計3編、広域地下水調査の報告が農林水産省とコンサルタントより2編発表されました。

最後に㈱テクノ長谷の松岡氏の閉会の挨拶で、発表会は締めくくられました。

なお、これらの講演と研究発表は「第3回研究発表会講演集」として製本されています。

懇親会：16時30分よりレストラン昂において懇親会が開催されました。参加人数は43名。この会では会長の岡本氏、講演者の渡辺、石川両氏および副支部長を囲みなごやかな雰囲気で行なわれました。

以上

(日本工営株式会社)